

卓見 異見

大学評価・学位授与機構教授
田中 弥生



たなか・やよい 02年(平14) 阪大国際公共政策博士取得。米大学でP・F・ドラッカー氏に直接指導を受け、非営利組織論を学ぶ。著書に「ドラッカー 2020年の日本人への『預言』」など。日本NPO学会会長。

ピーター・ドラッカーは近代マネジメント論の父として著名であるが、昨今は過去の人として語られることが多かった。だが2008年のリーマン・ショック以降、米国では再び読者が増え、日本では「もしドラブーム」の記憶が新しい。

ただし、氏に関する説明に誤解があることが気になっていた。例えば、氏がマネジメントに関心を抱いたのは、米国ゼネラル・モーターズ(GM)に調査を依頼されたからと説明されるが、それは真の理由ではない。氏はNPOの重要性を力説していたが、エンロン事件で企業に失望したからでも、年若い慈善心が強

庭に生まれたが、大学進学を嫌い、社会で実務を学ぶことを決めドイツに移った。その後、仕事の傍ら独学で学び、21歳で法学博士号を取得し、1993年に大学の非常勤講師の職を得た。だが同年、ユタヤ人であることを理由にナチスの命によって失職した。これを機に自身の最初の本格的著書でナチスの批判的分析を記し始めた。

ナチス台頭に独不況の影
氏はドイツ人がナチスに傾倒した理由を分析するが、恐怖政治のために国民が脅かされたなどの諸説は誤りであると指摘する。代わりにドイツの経済状況と失業に苦しむ人々の心理に着目する。当時、ドイツは第一次世界大戦と敗戦による多額の賠償金で財政破綻寸前だった。1929年には世界大恐慌に見舞われ、ハイパーインフレと高失業率に苦しんだ。折しもこの時期にペーパーマー世代が就労年齢に達し、職を得られない若者があふれ、失業率は30%を超えた。

ドラッカー論の誤解 前編

渡米前からの思想反映

こうした誤解が生じるのは渡米前のドラッカーの思想をシネグってゐるからだ。その思想は、青年ドラッカーが戦時中に出版した2冊の著書に描かれている。一つは、ナチスの批判的分析を記した『経済人の終わり』であり、もう一つは、第二次大戦が終結することを前提に戦後社会を描いた『産業人の未来』だ。ドラッカーは1909年にオーストリアのユタヤ系家庭に生まれたが、第二次大戦中の1937年に渡米した。氏は官僚の父と医学を学んだ母を持つ知的な家

摘する。代わりにドイツの経済状況と失業に苦しむ人々の心理に着目する。当時、ドイツは第一次世界大戦と敗戦による多額の賠償金で財政破綻寸前だった。1929年には世界大恐慌に見舞われ、ハイパーインフレと高失業率に苦しんだ。折しもこの時期にペーパーマー世代が就労年齢に達し、職を得られない若者があふれ、失業率は30%を超えた。ドラッカーは失職は経済的な支柱だけではなく、社会とのつながりを失うことを意味し、そのつながりを失った人々には社会は半分しか見えず、半分しか見えない社会は恐怖でしかないと指摘する。そして、人々は生活の安定のためには言

オピニオン

論や経済の自由を犠牲にしてもよいと考えるようになっていった。事実、ナチス政府は一時期、完全雇用を実現し、中低所得層に娯楽プログラムを提供した。

「与えられた民主」の危険

しかしながら全ての人々がナチスの政策に納得していたわけではなかった。知識層にはナチス政策が矛盾だらけであることに気づき、残酷な反ユタヤ政策に反発を覚える人々もいた。だが自らに火の粉がかかることを避け沈黙していたのだとドラッカーは指摘する。氏はそれを「無関心の罪」と呼び、20世紀最大の罪と批判した。生活不安にかられナチスに傾倒した人々よりも、見て見ぬふりをした人の罪の方がよほど重いというのだ。もう一つドラッカーが目指したのは、ナチス政権は議会制民主主義の手続きにのっとり誕生したという点だ。当時ドイツは短命政権が続く選挙と政権交代を繰り返していた。こうした中、人々は「選ぶ政党がない」と選挙権を放棄し最低投票率を記録した。結果、議会は少数政党に分裂し合意形成が困難になり機能しなくなった。

マネジメント、着想は青年期

ドラッカーはナチス政権の台頭を「結局は国民が選んだのだ」と結論づける。そして、ファシズムに陥る可能性はどの国にも潜んでいるが、それを踏みとどまらせた唯一の条件は「獲得した民主主義」と「与えられた民主主義」の違いだと述べた。例えば、フランス革命のように市民が自ら闘い自由と平等を勝ち取った記憶のある国と、敗戦でドイツ皇帝が逃亡し、にわかに創憲し民主主義国家になった国の違いだ。それは、革命の記憶がなければ同じ過ちを犯す可能性があることを示唆するのではないか。ではファシズムに陥らないためにはどうすべきなのか。ドラッカーは次の著書を記し始めたのだ。 (次回はユーグレナ社長の出雲充氏です)